

2023年度 日本工学院専門学校

デザイン科 イラストレーション専攻

基礎デザイン実習A

対象	1年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	中田 和彦	実務経験	有	職種					画家		

担当教員紹介

画家。写実表現を主とした風景画、人物画を制作。特に油彩画の古典技法を研究し、保存性の高さや多種多様な描画技法を現代の絵画表現に取り入れ、重層構造により生まれる油彩画の魅力を伝えるべく模索している。この日本工学院専門学校では20年余当授業を担当し、制作の現場から得られた表現方法や技術を学生に伝え、デザイナー、クリエイターとして必要不可欠な基礎体力を実習を通じて鍛えている。

授業概要

（基礎素養となるデッサンを行う。複数回の作品制作を行う中で、描画力を養うことはもとより、デザイナー、クリエイターとして必要不可欠である感性を高める点に重点を置く。題材に向き合う姿勢と、完成度を高める制作プロセスを日々の制作から習得する。将来を担う人材を育むこと。如何に学生一人一人が自分の感度を高め作品制作に臨み、審美眼を備え創作できるか。自然光で観察する課題、果物などの静物、五感を刺激する題材を用い、感覚に働きかけ、三次元の世界から得られた情報を如何にして二次元平面に表現するかを模索できる、応用力を持った人材を育てることを目的とする。）

到達目標

基本構造を踏まえモチーフを捉えることができる観察力。明暗、立体、質感表現、パースペクティヴを中心とした空間構成のテクニックに至るまで、段階を踏んだ課題を通して基本的描画力を身に付けていく。就職活動のためのポートフォリオ用作品も視野に入れ、より完成度の高い作品を作り達成感と自信を得たい。

授業方法

基礎から応用へ、様々なモチーフを用いた実習制作を行う。講評会による作品発表の場を設け、作品鑑賞における視点を学び、自身の課題を省み、また他者の作品から刺激を享受することまでを一つの課題の帰着点としたい。作品制作に関連する美術様式や用語を伝え、作品表現の幅を広げる応用力に繋げたい。

成績評価方法

課題点 60% 提出課題の得点。実習に参加していても課題提出がない場合は評価しない。

出席点 40% 3回の遅刻で1回欠席とみなす。

履修上の注意

制作姿勢を正しく保てる環境作り。現在のような状況だからこそ、学校のアトリエで制作することの意味を強く認知させたい。アトリエの整えられた空間で、緊張感を持ち、それにより高められる題材への感受性を知り、“描く喜び”は“観る喜び”と通底していることを広く学生には体験してほしい。

教科書教材

毎回クロッキー帳を持参。必要に応じ参考資料や参考動画を配布。参考書は必要としないが、学生が求める場合は推薦参考書を紹介する。

回数	授業計画
第1回	「グレースケール」 イントロダクション 自己紹介 授業概要 道具説明 【 B4画用紙 】
第2回	「立方体」 基本形態① パースペクティヴ 明暗、立体表現 【 立方体石膏 B4画用紙 】
第3回	「ティッシュ箱」 応用形態① レタリング 質感表現 【 ティッシュ箱 B4画用紙 】
第4回	「円柱」 基本形態② 楕円のパース 明暗、立体表現 【 円柱石膏 B4画用紙 】
第5回	「缶」(1) 応用形態② 曲面へのレタリング 質感表現 【 缶持参 B4画用紙 】

2023年度 日本工学院専門学校	
デザイン科 イラストレーション専攻	
基礎デザイン実習A	
第6回	「缶」(2) 応用形態② 曲面へのレタリング 質感表現
第7回	「球体～光を描く～」 基本形態③ 黒画用紙に白色鉛筆 【 球体石膏 B4黑色画用紙 白色鉛筆 】
第8回	「野菜・果物」 応用形態③ 固有色 質感表現 【 球体形の野菜・果物持参 B4画用紙 】
第9回	「静物」(1) 作品制作 組みモチーフ 【 ブロック ワイン瓶 ステンレスマグ 円錐石膏 B3画用紙 】
第10回	「静物」(2) エスキース作業での構図の企て 複数のモチーフの関係性を表現
第11回	「自画像」(1) 人体表現① 顔のプロポーション、骨格 【 A4サイズ鏡持参 B3画用紙 】
第12回	「自画像」(2) 立体表現と空間表現
第13回	「人物クロッキー」 人体表現② ライブ制作 【 クロッキー帳持参 】
第14回	「友達を描く」(1) 作品制作 キアロスクーロ技法 (有色地に色鉛筆)
第15回	「友達を描く」(2)